「潮流・下関2023展」市立美術館にて

しもまち キラリ

漫画家

文月今日子さん

昭和48年、別冊少女フレンド「フリージアの恋」で漫画家デビュー。以来数々の作品を発表しています。
平成18年には下関市芸術文化振興奨励賞を受賞し、今年デビュー50周年を迎えた文月今日子さん。
今も下関で漫画を描き続けています。

漫画が好きで描き続けて半世紀

漫画家になりたい

文月さんが漫画に引き込まれたのは、小学2年生の時。引っ越した北九州市の家の近くに貸本屋があり、夢中になって漫画を読んだそうです。描くようになったのは、読者の応募コーナーがきっかけでした。

「漫画を描いて送ると採用されて、応募することが面白くなって。でも、本格的に物語を描こうとしても、なかなか最後まで描けないんですよ。中学生になると、やっと最後まで漫画が描けたんです。それが、マーガレットの漫画賞に入ったんですよね。佳作かな。それで手の届くところに漫画家っていう夢ができたんですけど。親に漫画家になりたいって言うと笑われるような時代でした」と、当時を振り返ります。

▲絵の具を使って色を付ける文月さん。

高校では美術部に入部。油絵などを描きながら、家では漫画も描いていました。美術部の先生に薦められ、九州造形短期大学に入学。短大でも漫画が忘れられず、家で描き続けていました。

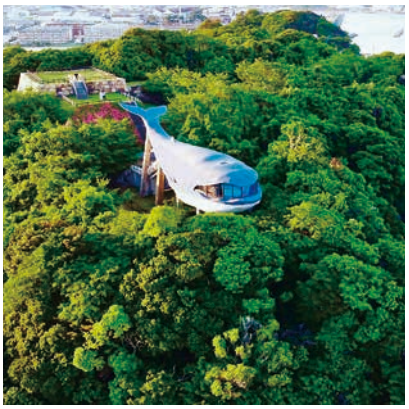
文月さんに転機が訪れたのは、短大1年生の時。「小倉で『アズ漫画研究会』の方々が漫画をずらっと並べているのを見かけました。『北九州にもこんなに漫画を描いている方がいるのね』と思ってそのまま会に入りました。その会に『編集者に漫画を見てもらいに行くの』って言う方がいたんです。私も一緒に行こうと思って、頑張って漫画を仕上げて、講談社の編集者さんのところへ持って行きました。何人かに見ていただいて『この原稿、置いて行きなさい』って言われたんです。それから、デビューすることになりました」

Linked Instagram インスタグラム

市報×インスタグラム連動企画
フォロワーの皆さんが投稿した下関の魅力が伝わる写真をご紹介♡

There Are Many Whales In Shimonoseki

@ship_tmさん



@mkn1024さん

@kazumanautさん

Editor's note 編集後記

◆下関漁港の競りは、日本一早いと言われる午前1時から。福岡などの競りにも間に合わせるためだそうです。市場のみなさんすごいです。廣野
◆私まさかの両日、職場体験jobフェアに参加。笑顔あふれる学生と、地域企業の温かい眼差しとプロ技術。下関の元気に触れました！西村
◆映画で見た競技かるたを生で体感。詠まれた歌が耳に届いた時にはもう、音もなく、目の前から札が消えている。そんな感覚でした。宮村

デビュー50周年記念 文月今日子展

期 9月16日～11月26日
休 火曜日
所 北九州市漫画ミュージアム

文月さんが寄託した原画や初公開の資料を紹介。サイン会や学芸員のギャラリーツアーもあります。

▶北九州市漫画ミュージアムHP

▶畑に来る猫たち
「かわいくて描いています。いつか絵本にしたいと思うけどなかなか枚数がたまらないんです」と文月さん。

◀一番連載が長くなった漫画「ミラノ・これくしょん」
「ミラノコレクションの取材に行ってみたい」という文月さんの願いを聞き、出版社がチケットを手配してくれたそうです。「これがあの！というファッションショーを取材させていただいて描きました」

漫画を描き続けたい

学生と漫画家の二足のわらじを履いていた文月さんは、先生の理解を得ながら無事短大を卒業しました。その後、上京して漫画に専念しますが、住みづらさを感じて、北九州市に帰ります。その数年後、結婚を機に下関市へ。「北九州へ帰ってからも、ありがたいことに編集者さんからお仕事が来るようになって、結婚してもお仕事が途切れることなく頂けて、今に至ります」

下関で漫画を描く不便さはなかったのでしょうか。

「下関は人が親切で住みやすいです。アシスタントは、下関からも来てくれるようになりました。原稿が締め切りに間に合わない時は、夫が車を飛ばして、福岡空港から航空便で送ったり、飛行機で東京まで飛んで、担当者さんに渡したりしたこともありました。締め切りに追われて、胃が痛かった」と、懐かしそうに文月さんは振り返ります。

今は畑で野菜や花を育てながら、ペースを落として漫画を描いている文月さん。作品に描かれている花からは観察力、猫からは愛情が感じられます。「これからも、歩けて、おしゃべりができて、猫たちの世話ができて、描き続けられたらいいですね」